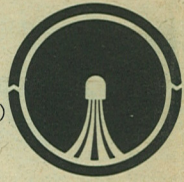


第24号

ほんきょうろ

本郷とは人類の本当の故郷(地上天国)という意味です。従って、本郷路とは地上天国実現のための道路です。(題字は文鮮明師)



本郷路

昭和61年(1986年)12月1日発行

発行所 国際ハイウェイ建設事業団  
東京都渋谷区道玄坂2-10-12  
新大栄ビル3号館4F TEL 03(496)2893

THE INTERNATIONAL HIGHWAY CONSTRUCTION CORPORATION

世界の頭脳が一堂に結集

第15回科学の統一に関する国際会議が開催

米・ワシントン

統一世界を求めて

国際ハイウェイ建設の経過も報告

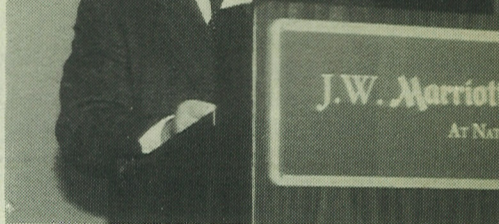
第十五回ICUSは、四百五十名の学者を集めて開催された(二十八日、開会式)



十一月二十七日から三十日までの四日間、米国のワシントンD.C.のJ.W.マリットホテルにおいて「第十五回科学の統一に関する国際会議(ICUS)」が開催された。国際文化財団(ICF・本部ニューヨーク)の主催で開催された同会議には、四十五カ国から三百四十名の学者が参加し、「絶対価値と新文化革命」という統一テーマのもと、七つの委員会に分かれて白熱した討議が行われた。また会議では、第十回ICUSにおいて提唱された国際ハイウェイ構想の経過報告も行われ、参加者の大きな注目を集めた。(第二・三・四面に関連記事)

今回第十五回目を迎えるICUSには、米国、英国、西独、中国、韓国、日本など四十五カ国二百四十名の学者が参加。ホワイトハウスに近接する会場マリットホテルは、ICUS開催の四日間、各国を代表する者達の熱気を満ちた。二十七日夜、世界中から集まった参加者の一人一人をICUS主催者の文鮮明師夫妻が握手で迎え、歓迎のセレモーションが盛大に開かれた。会場では、ICUSに初めて出席する参加者も数多くみられたが、食事や交えた和やかな話らいの中で旅の疲れと緊張も解きほぐされていったようであった。

その翌二十八日、午前七時から開会式が開かれた。開会式は、国際文化財団会長のN・サローネン氏の開会の辞で始まり、ICUS副議長を務めるA・キング博士(ローマクラブ会長)が、ICUS全体の概要と委員長の紹介を行った。今回のICUSは、ICUSの委員会に分かれており、そのテーマは「科学の統一」である。そのテーマは「人類が宇宙船としての地球に与える衝撃」に至るまで広範囲にわた



日韓トンネル建設を報告する佐久田理事

た。その後、ICUS副議長のア・キング博士(ローマクラブ会長)がICUSの提唱者である文鮮明師を紹介し、「真の愛と統一、世界と題して講演を行った。その中で文鮮明師は、「世界平和は統一によってのみ可能であり、その根本は個人における心と体の統一である。そしてそれが実現できるのは敵国の人をも愛せるような神の愛のみである」と断言した。

続いて、第十五回ICUSの国際ハイウェイ建設事業団の理事の佐久田昌昭(日大教授)が、日韓トンネル建設の報告を行った。

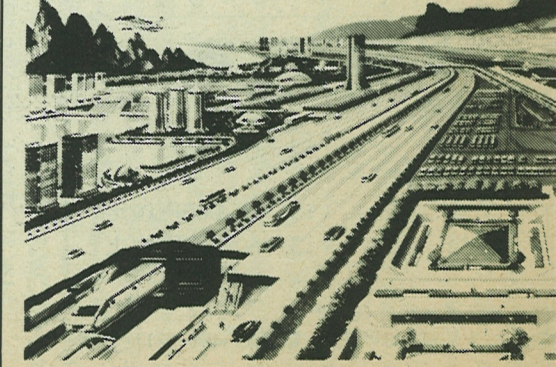
岩田博文総務部長が出席。佐久田理事は、二十八日の夜、日韓トンネル建設の現状報告を行い、出席者の大きな反響を呼んだ。会議は三日間続いたが、三日には総括とパンケットがもたらされ、参加者に大きな感動を与えつつ終了した。

なお今回のICUSは、八十七年十一月に、米ジョージア州アトランタで開催される予定。

自由公路

十二月終りのワシントンは突き刺すような寒さだった。市内中央部に広がるモールは、南北戦争時代から建設されたモニュメントを中心に、広々とした美しい空間を演出している。モールのまわりには西欧風の大理石の建物立ち並び、米国の首都として威厳を感じさせた。高層ビルが見えないのは条例で禁止されているから。第十五回ICUSはワシントンで開催された。ホワイトハウスに隣接する十五階建てのホテルは、この期間ICUS関係者で占められた。各国から集まった参加者は、初日を緊張感とともに感じたが、会議になるにつれて、著者は学者達だけに固い衣を脱ぎ、意見交換の場を築き、皮肉の色の濃い言葉を乗り越え、人類の問題について討議する姿は、ICUSならではの光景だ。今回は東欧や中国からの参加者もみられた。本質的問題を議論する中で共通の認識が生まれ、提唱者の文鮮明師が言われるように「ICUSファミリー」としての自覚と誇りも参加者一人一人に感じられた。この国際ハイウェイ構想は、第十回ICUSの席上、世界各国の学者によって議決されたものだ。「絶対的価値による新文化革命」というICUS精神に基づいて、科学者達の英知を集結する時、民族・国家の問題を解決してゆくと出て来た。平和の道の建設も可能だ。

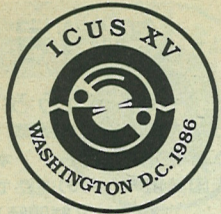
平和の架け橋・国際ハイウェイプロジェクト



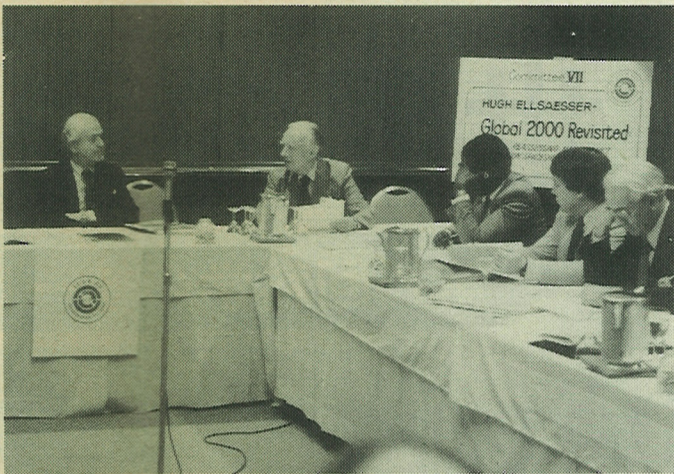
Advertisement for the International Highway Project, listing materials like videos, brochures, and tickets, along with contact information for the International Highway Construction Corporation.

Vertical text on the right edge of the page, possibly a library or collection identifier.





# 新しい文明を模索する



第7委員会では地球的規模の環境問題が討議された



ゲストスピーカーの講演にも多くの学者が出席した(28日の講演会場で)

## 絶対価値と新文化革命

「絶対価値と新文化革命」という統一テーマのもと、第十五回ICUSは、七つの委員会にわかれて活発な討議が行われた。委員会のテーマは、「諸科学における原理の統一」から「人間生命の価値」にいたるまでバラエティに富み、参加者は専門家の立場から意見を交換した。ここでは各委員会の概要を紹介する。

### 多彩な討議テーマ 本質的問題を取り上げる

今回のメインテーマである「絶対価値と新文化革命」は、第十二回のシカゴ会議以来のもの、ICUSの基本目標が明示されている。即ち「ICUSは、絶対価値の探求を通じて文化革命促進に必要な諸知識の統一に関する原則を提示することを目標としている」(Z・サローネICUF会長)。

#### ・第一委員会

第一委員会のテーマは「諸科学における原理の統一」。委員長のM・アロンソン(フロリダ技術研究所所長)は、古代から現代までの科学史を、宇宙の基本要素や原理、法則に照らしながら、キリシヤ時代に行ってきた。キリシヤ時代は四大元素が提唱され、近代では素粒子理論が目新しい成果をあげている。そして現代では哲学・認識論の立場から宇宙についての基本的な四つの概念が明らかになっている。即ち、調和、時空、エネルギーそしてエンタローピーである。

#### ・第二委員会

第二委員会のテーマは「人間の価値」。委員長はP・バダハム(ワシントン大学首席講師)。

#### ・第三委員会

第三委員会のテーマは「世界と芸術の関係、その文化変換への

27日	7:30pm 歓迎レセプション
28日	7:00am 朝食
	9:00am 開会式
	10:30am コーヒーブレイク
	11:00am 講演「存在の連鎖」 R・ジャストロー
29日	1:00pm 昼食
	2:30pm セッション1
	4:30pm コーヒーブレイク
	5:00pm セッション2
	7:00pm ディナー
30日	9:00pm 日韓トンネル計画の報告 佐久田昌昭
	7:00am 朝食
	9:00am セッション3
	11:00am コーヒーブレイク
	11:30am セッション4
	1:30pm 昼食
	2:30pm ワシントンタイムズ社見学ツアー
	5:30pm 月刊誌「ワールド&アイ」説明会
6:30pm ディナー	
8:00pm 講演「人間と自然世界」 K・メランビー	
30日	7:00am 朝食
	9:00am セッション5
	11:00am コーヒーブレイク
	11:30am セッション6
	1:30pm 昼食
	3:00pm 総括セッション
	4:00pm 閉会式
6:00pm ICUF主催レセプション	
7:00pm パンケット	



人間生命の尊厳について話し合われた第2委員会

命の価値について探求している。ここでは受精から誕生までのプログラムに倫理的メスを加え、産院制限や堕胎、死刑、心臓移植などについても考察が加えられた。また戦争という局面では、人間生命の価値は相対的になるものであるが、絶対主義者の立場から人間生命の尊厳についても検討された。

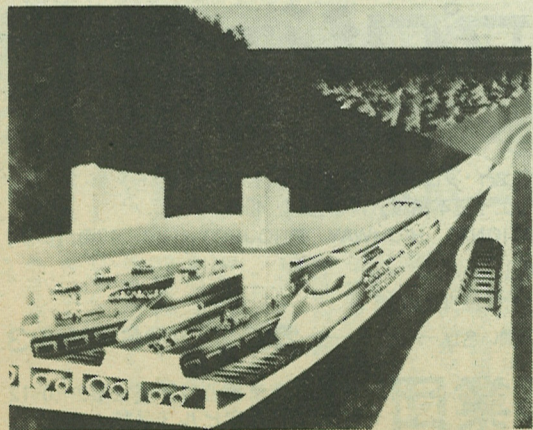
第五委員会のテーマは「第三世界開発の問題、アフリカの場」。委員長はJ・クナパー(ロンドン大学教授)。

#### ・第六委員会

第六委員会のテーマは「知識と価値への東洋的アプローチ」。委員長は、中川学(橋本大学教授)。

#### ・第七委員会

第七委員会のテーマは「人類が宇宙船としての地球に与える衝撃」。委員長は、H・W・エルセッサー(ローレンス・リバモア国立研究所所長)。



日韓トンネル完成予想図第1案

## 国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会

- 「日韓トンネル時報」(B5判) .....500円(送料込)
- 「日韓トンネル研究」(B5判) .....2,000円(送料別)
- 振り込み先  
三菱銀行渋谷支店(普)5986474 振替 東京8-143133
- お申し込み先  
☎03-496-9211

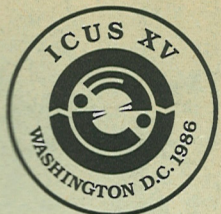
国際ハイウェイプロジェクト  
日韓トンネル研究会

〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12  
新大宮ビル3号館930号室 電話03-496-9211(代表)

### 会員募集

1. 正会員  
年額 1口 5,000円
2. 賛助会員  
年額 個人 1口 10,000円以上  
年額 法人 1口 50,000円以上





# 世界平和は人格革命で



第十五回ICUSで講演する文鮮明師

## 真の愛と統一世界

十一月十七日から四日間、米ワシントンで、四十五回、二百四十名の学者を集めて、「第十五回科学の統一に関する国際会議(ICUS)」が開かれた。今回の統一テーマは「絶対価値と新文化革命」。二十八日、開会式でICUS提唱者として挨拶に立った文鮮明師は、「真の愛と統一世界」と題する講演で、世界の統一の根本となるのは個人における心の統一であり、それを表現できるのは敵国の人を愛せるという神の愛のみであると訴えた。同師の講演全文は次の通り。

### 文鮮明師の講演文

#### 平和の実現は統一運動で

敬愛する議長と委員会議長、著名な教授、紳士淑女のみなさん。この第十五回科学の統一に関する国際会議においでいただき、たぐいし心からの感謝を申し上げます。みなさまが多忙なかたはよく存じておられます。

この場で話したいのは「真の愛と統一世界」についてです。今日の世界における混沌の根本原因は、唯物論と唯心論(観念論)の闘争、すなわち、善悪と悪徳の闘争であり、また善神と悪神との対決であると言えます。

第一に、統一運動は科学技術の最先端に立ち、そしてその技術を世界に均等に普及させなければなりません。今日まで、技術的に進んだアメリカは南米を従属させ、同じくヨーロッパはアフリカを従属させてきました。これを正すには、すべての国々の科学技術水準を、平等化する必要があります。

第二に、統一運動は科学技術の最先端に立ち、そしてその技術を世界に均等に普及させなければなりません。今日まで、技術的に進んだアメリカは南米を従属させ、同じくヨーロッパはアフリカを従属させてきました。これを正すには、すべての国々の科学技術水準を、平等化する必要があります。

第三に、この運動は世界的な経済問題に取り組みなければなりません。今日、世界は国際金融危機に直面しています。数多

たつて頂上を極めたとしても、なおも一つの問題が残ります。その問題は、民族や人種を超えた人間をいかにつくる(教育)かということです。それが、その人がアメリカ人なり、その仕事にアメリカ人なりを採用し、イキリ人であるか、キリ人であるか、フランス人、ドイツ人、日本人、といった傾向があるのです。

そのため、世界の平和と統一を図る前に、まずは世界の異なる人種、異なる文化、異なる宗教、異なる習慣、異なる価値観、異なる指導者、そして異なる国家を、互いに認め、互いに尊重し、互いに愛し、互いに協力し、互いに助け合えるようになることが、世界の平和と統一の第一歩です。

真の人間とは神に似た者です。真の人間に満ちあふれた世界を実現するため、人間的な革命ではなく、人類に「人格の革命」が起きなければなりません。この人格革命は、人を神に似た者にするための道です。

神は間違いないおられます。真の人間とは神に似た者です。真の人間に満ちあふれた世界を実現するため、人間的な革命ではなく、人類に「人格の革命」が起きなければなりません。この人格革命は、人を神に似た者にするための道です。

## 神の愛が世界統一のかぎ

人類の希望は平和ですが、平和は統一によってのみ実現可能なのです。この統一とは、世界の統一だけでなく、国家における統一、家庭における統一、個人における統一、他のさまざまな段階の統一をも意味します。これらのうち、最も重要なものは個人における統一です。

その統一の道は、神の愛によるものです。神の愛は、すべての人を愛し、すべての人を救い、すべての人を祝福するものです。神の愛は、すべての人を神に似た者にするための道です。

神の愛は、すべての人を愛し、すべての人を救い、すべての人を祝福するものです。神の愛は、すべての人を神に似た者にするための道です。

神の愛は、すべての人を愛し、すべての人を救い、すべての人を祝福するものです。神の愛は、すべての人を神に似た者にするための道です。

神の愛は、すべての人を愛し、すべての人を救い、すべての人を祝福するものです。神の愛は、すべての人を神に似た者にするための道です。

神の愛は、すべての人を愛し、すべての人を救い、すべての人を祝福するものです。神の愛は、すべての人を神に似た者にするための道です。

神の愛は、すべての人を愛し、すべての人を救い、すべての人を祝福するものです。神の愛は、すべての人を神に似た者にするための道です。

神の愛は、すべての人を愛し、すべての人を救い、すべての人を祝福するものです。神の愛は、すべての人を神に似た者にするための道です。

## 為に生きる人格完成

### 新文明の世界実現の道

人格の革命で神性に近づく

神は間違いないおられます。真の人間とは神に似た者です。真の人間に満ちあふれた世界を実現するため、人間的な革命ではなく、人類に「人格の革命」が起きなければなりません。この人格革命は、人を神に似た者にするための道です。

神の愛は、すべての人を愛し、すべての人を救い、すべての人を祝福するものです。神の愛は、すべての人を神に似た者にするための道です。

神が願われる世界平和を実現するために、以下のことがらを達成しなければなりません。

第一に、統一運動は思想面において傑出したものとなるべきです。すべての宗教、哲学的、宗教的観念に挑み、それらを凌

越え、新しい思想、科学技術、経済およびマスコミのすべてにわたって、統一運動の思想を浸透させるべきです。

第二に、統一運動は思想面において傑出したものとなるべきです。すべての宗教、哲学的、宗教的観念に挑み、それらを凌

越え、新しい思想、科学技術、経済およびマスコミのすべてにわたって、統一運動の思想を浸透させるべきです。

第三に、統一運動は思想面において傑出したものとなるべきです。すべての宗教、哲学的、宗教的観念に挑み、それらを凌

越え、新しい思想、科学技術、経済およびマスコミのすべてにわたって、統一運動の思想を浸透させるべきです。

第四に、統一運動は思想面において傑出したものとなるべきです。すべての宗教、哲学的、宗教的観念に挑み、それらを凌

越え、新しい思想、科学技術、経済およびマスコミのすべてにわたって、統一運動の思想を浸透させるべきです。

第五に、統一運動は思想面において傑出したものとなるべきです。すべての宗教、哲学的、宗教的観念に挑み、それらを凌

越え、新しい思想、科学技術、経済およびマスコミのすべてにわたって、統一運動の思想を浸透させるべきです。

第六に、統一運動は思想面において傑出したものとなるべきです。すべての宗教、哲学的、宗教的観念に挑み、それらを凌

越え、新しい思想、科学技術、経済およびマスコミのすべてにわたって、統一運動の思想を浸透させるべきです。

第七に、統一運動は思想面において傑出したものとなるべきです。すべての宗教、哲学的、宗教的観念に挑み、それらを凌

越え、新しい思想、科学技術、経済およびマスコミのすべてにわたって、統一運動の思想を浸透させるべきです。

第八に、統一運動は思想面において傑出したものとなるべきです。すべての宗教、哲学的、宗教的観念に挑み、それらを凌

#### 家庭は神の愛を訓練する場

この真理を理解すれば、夫と妻は調和を保つことができ、その子供たちは親孝行に励むようになります。

神は、真に悲惨で、みじめな立場にありながら、真の対象となる国を探し求めておられます。このアメリカの国には、多くの聖職者の中から、神は、私を愛の対象として認め、危機的状況にある二カグラのために働くよう半獄にいた私を訪ねてこられました。

#### 統一は敵をも包む神の愛で

世界の統一は、分断された韓半島の統一も含めて、軍事力では決して達成できません。統一神の愛、敵の国をも包み込むような愛によるのみ可能です。

私は今日までこの理念を実践してまいりました。アメリカで仕事をすることになり、私は日本人と韓国人、日本人とアメリカ人、アメリカ人とドイツ人と、第二次世界大戦で敵同士であった国々の人たちが、互いに愛し合わなければならないと教えることができました。敵国の人々を自分の国の人々よりも愛することができるといふ確信とした伝統をわれわれが打ち立てなければ、世界の統一は現実のものにはなりません。そして、神の愛によるのみ、敵国を自国より愛せるようになるのです。



# 科学の統一に関する国際会議

## 第15回 ICUS



# 人類の未来に希望を

## ハイウェイ構想への関心高まる

ワシントンD.C.で開かれた第十五回ICUSには、世界中から著名な学者二百四十名が出席し、三日間にわたって白熱した討論を展開したが、激しい議論の中で参加者はそれぞれ、民族・国家の枠を越えて、未来世界に対する展望が浮かんで来たようであった。なかでも世界を道徳でつなぐ国際ハイウェイ構想の報告は、未来社会への具体的な提案として参加者に大きな希望をもたらした。また最終日には、文鮮明師夫妻の主催で盛大なバンケットがもたれ、参加者の労がねぎらわれた。

### ハイウェイ構想を報告

二十七日夜、各国から集まった参加者は、会場入口で一人、一人を握手で迎える文鮮明師夫妻の笑顔に、つまれながらリセッション会場にはいった。そして食事を楽しんだ後、和やかな歓談のなかで長旅の疲れをいやし、三日間の会議に備えて情報を交換し合った。

翌二十八日から本格的な討論にはいったが、各セッションでは、論文発表と質疑応答を経て自由討論が続けられた。各国を代表する著名な学者達には、どの委員会も激しい意見のやりとりが行われ、会場は熱気に満ちた。またロビーには、各種の出版物や写真が展示されたが、第十回ICUSで提唱された国際ハイウェイのコーナーも設けられ、ハイウェイの完成予想図と日韓トンネル建設のモデルが展示された。セッションの合間には多くの参加者がハイウェイのコーナーを訪れたが、五年前の第十回ICUSに出席していたコーナーを訪れたが、五年前の第十回ICUSに出席していた

### 盛大な晩さん会

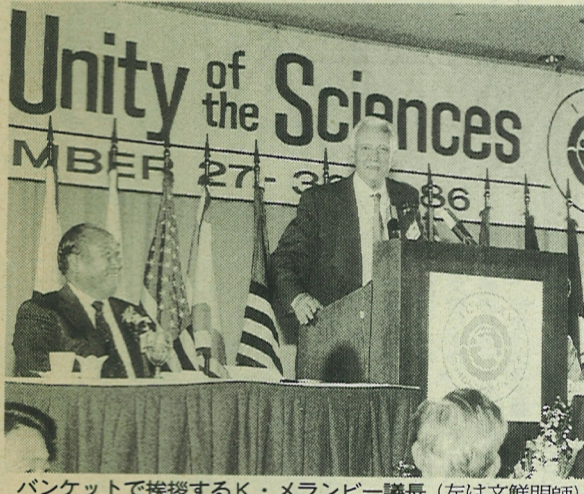
またつた会議の合間に、日刊紙「ワシントンタイムズ」の記者「アライ」や米刊誌「ワールド・アイ」の記者「アライ」の説明会も行われた。そして二十日の午後、謝意を表しながら、「世界に山

には、各委員会ごとの総括セッションと全体総括が行われ、三日間にわたる会議の幕が下ろされた。全体会議で挨拶に立ったICUS副議長のキング博士と、ワシントン・日大教授が、文鮮明師のハイウェイ構想の基本原理を、これまで五年間にわたって進められてきた日韓トンネル建設の経過をスライドを使いながら紹介した。報告会には約百名の学者が出席したが、急遽中止を進められていた巨大プロジェクトに対して、強い関心を示し、佐久田教授に対して、建設資金の問題や今後の技術的見通しなどの質問が相次いだ。

文鮮明師によって提唱された。ICUSとは？

ICUSとは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。

「科学者」に、知識の本質を探究し、科学と価値基準の関係を明らかにし、世界十二都市で行われようとする「科学の統一」を目的に、国際文化財団創設者の



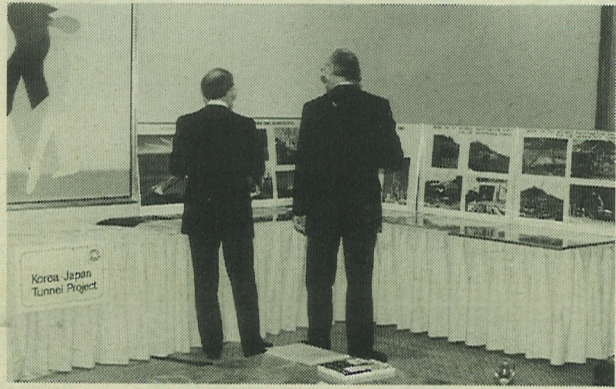
バンケットで挨拶するK・メランビー議長(左は文鮮明師)



リセッション会場に参加者を迎える文鮮明師夫妻



日韓トンネル建設の現状報告に出席者は熱心に耳を傾けた



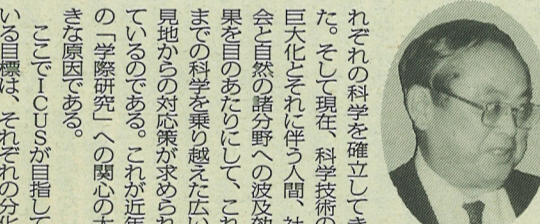
ロビーには日韓トンネル建設のパネルが展示された

ICUS経過一覧表

開催年	参加者	メインテーマ	
1	1972	20	科学の道徳的指向性
2	1973	60	近代科学と精神的価値
3	1974	128	科学と絶対的価値
4	1975	340	科学の中心性と絶対的価値
5	1976	360	絶対的価値の探求 - 諸科学の調和
6	1977	400	変化する世界における絶対的価値の探求
7	1978	450	既存の価値の再評価と絶対的価値の探求
8	1979	485	絶対的価値の探求における学界の責任
9	1980	600	絶対的価値と人類平和の探求
10	1981	770	絶対的価値の探求と新世界の創造
11	1982	520	絶対的価値の探求と新世界の創造
12	1983	300	絶対的価値と新文化革命
13	1984	250	絶対的価値と新文化革命
14	1985	250	絶対的価値と新文化革命
15	1986	240	絶対的価値と新文化革命

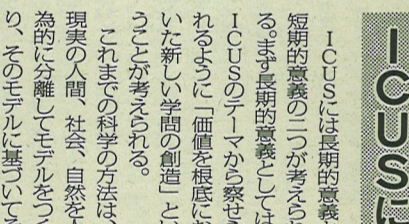
ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。

「科学者」に、知識の本質を探究し、科学と価値基準の関係を明らかにし、世界十二都市で行われようとする「科学の統一」を目的に、国際文化財団創設者の



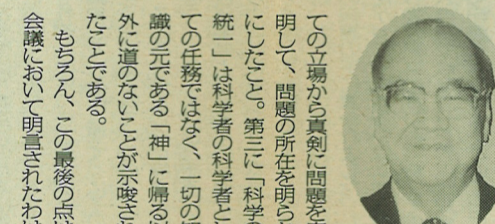
ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。

ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。



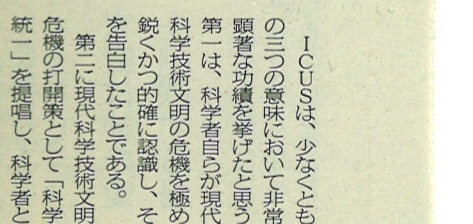
ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。

ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。



ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。

ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。



ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。

ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。

## 学際研究目指す

前筑波大学学長  
福田信之

ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。

## 科学の限界自覚

元立教大学総長  
松下正寿

ICUSは、科学の統一に関する国際会議の略称で、世界のあらゆる学問分野の著名な学者が参加して、全世界の緊急かつ重要な問題を研究、討議する国際会議である。